

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルルディ蘇我教室		
○保護者評価実施期間	2024年7月1日		～ 2024年11月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2024年7月1日		～ 2024年11月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備について、活動スペースの中に視覚的な区切りを設けることで、気持ちを切り替えることができる配慮がされている。また、教室内の段差をなくしバリアフリー化ができています。	同じ空間の中でも色テープやテーブルなどの家具を使うことで空間を区切ることが出来る。	玩具と活動スペースの配置を工夫してさらに空間分けができるようにしていく。
2	適切な支援の提供について、個々に合った支援プログラムの企画ができています。毎週土曜日には買い物や映画観賞会、体験学習など社会性スキルを身につける活動を企画し、ねらいを明確にしてイベントを提供することができている。また、個別療育、グループ療育があることで、個々の能力を伸ばせる時間と集団活動を学べる時間を区切り活動を行うことができている。	個別プログラムについては毎日会議を行い、日別リーダーを立てて全体の様子が把握できるようにしている。イベントやプログラム内容については月に2回、2か月前から会議を行い月案を職員全員で立てている。	個々の課題に寄り添ったプログラムや集団活動を学べるイベントの充実化をさらに目指していく。
3	保護者への説明等について、事前にご家族から相談内容を具体的に聞きし保護者に寄り添った個別支援計画を立てることができている。また、送迎時等保護者の方と話せる機会を利用して普段の様子はもちろん保護者のニーズや課題を話し合い固定化されないよう心がけることができている。	職員の認識や見え方で療育を行うのではなく、保護者に寄り添った支援を行っている。保護者との相談内容は口頭だけではなく、アセスメントシートに入れて情報共有を行っている。日々の生活を取り入れたインフォーマルなアセスメントを取り入れている。	個別支援計画サービス提供会議では職員全員で意見を出し合い、より保護者のニーズに寄り添った支援が行えるよう行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年齢に応じた教材器具が少ない、生活習慣に関する絵カードや写真が少ない。	ハンドメイドにこだわっているため時間がかかっている	随所に絵カードや写真を設置し言葉のツールがない子でも生活習慣が身に着くよう視覚化を行っていく。
2			
3			